

# 校長あいさつ

北国秋田の男鹿半島も、天地に清く明るい空気が満ちる清明の時節を迎え、校舎から臨む寒風山も緑をまして参りました。

本日ここに、男鹿市教育委員会教育長 鈴木雅彦様を始め、沢山の方々の御臨席を賜り、秋田県立男鹿工業高等学校第36回入学式を挙げていただけますことは誠に喜ばしく、皆様に深く感謝申し上げます。

ただいま、入学を許可いたしました、機械科35名、電気電子科34名、設備システム科35名の新入生の皆さん入学おめでとうございます。生徒、職員一同、心より歓迎いたします。

平成 28年 4月 6日  
秋田県立男鹿工業高等学校  
校長 東海林 大樹



本校は、昭和56年、地域の産業の発展に寄与する技術者育成の期待を担い開校された、創立36年目の工業高校であります。

卒業生は五千四百名を超え、県内はもとより、国内外の産業界の第一線で活躍しており、中には海外を活躍の舞台としている卒業生も数多くおります。

本校の校訓は『創意実践』です。これは、従来の考え方や方法を単に受けれるのではなくて、常に考察し、新しい手法や独創的な考えを見つけ出し、それを自分のものとして実践してみるということです。

工業教育の中で最も大切な「ものづくり」にとって『創意実践』の精神は、切り離すことのできない大切な資質であります。

今日の入学に当たり、私から皆さんに次の三点をお話ししたいと思います。

まず第一には、義務教育との違いをしっかりと認識し、自己の決意を固めてほしいということです。小・中学校の国民の義務としての入学に対して、高校は自らの意志によって進学を決め、希望に添って学校を選択することができます。今一度自分の胸に手を当てて、自分は何を学ぶために高校生になったのかということを考えてください。人生において、はっきりと目標を決めてことに臨むことはとても大切なことでもあります。

第二には「計画性と実行力を持ってほしい」ということです。高校生活は、これなしに展開することはできません。皆さんが子供の時分には、ほしい物も行きたい所も、親がほとんどかなえてくれたことでしょう。しかし高校生ともなると望みは多様で、本人の生き方とも深く関わってきます。従って、自分自身が時間を掛けて少しずつ成し遂げるしかありません。そこで必要になるのが「計画性と実行力」。すなわち本校の校訓である『創意実践』が求められるのです。

高校生活は入学の時から卒業とその先を考えて進む、三年間の総合プロジェクトです。『創意実践』の精神で、高校生活開拓の手段としてください。

さて三点目は、高校ではやはり「文武両道・学業と部活動の両立」に尽きます。目標は一つに絞らず二つ以上持ってほしいと思います。

いま男鹿工業生にとっての大きな課題は、どのようにして学力の向上と部活動の振興を図るかにあります。しかもこの両者は、不思議なことに一方が盛んになれば、他方も向上するという関係にあります。あるいは皆さんの中には、運動部の活動だけを目標に入学したという人もあるかもしれません。しかし部活動一本やりでは十分とは言えないのです。行き詰まれば、たちまち生活全体が挫折するからです。「学業も部活動も」・・・一見欲張りで、非能率的に見える二足のわらじを履くことが、実は目標を失うことなく高校生活を完成させる手段なのです。

一日の中に、基礎力を伸ばす緊張感のある授業があり、高い資格取得や広い知識を得る工業専門科目があり、放課後にはそれぞれの個性や目的に応じた部活動・生徒会活動があります。家庭では、時間は短くとも学習に励む、これが本来的な男鹿工業生の姿です。

新入生の皆さん、精一杯努力してください。

保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。今まで愛情こめて育てこられたお子様を、今、ここに本校の一年生としてお預かりいたしました。この先、時には壁にぶつかって悩むことがあるかもしれません。

どうかこれからも温かく、大きな心で受け止めていただきたいと思います。そして、成長する姿を共に見守っていきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

最後に、本日ご列席の皆様、重ねて、感謝の意を申し上げ、本日入学された新入生が、三年間の本校での高校生活で、たくましく成長していくことを期待して、入学の式辞いたします。